

お さ そ い

全国体育学習研究会会長 菊 幸一

今夏も、全国各地で猛暑が続いています。会員の皆さんの体調は如何でしょうか。私たちを取り巻く環境は、21世紀に入ってなお自然も、社会も変化し続けていますが、このような変化にもっとも早く敏感に接するのは、私たちの身体（からだ）にはほかなりません。

全体研の体育学習は、社会という環境の変化に柔軟に対応しつつ、その変化と体育との関係を子どもたちが「今できる力」から考えてきました。そのもっとも最前線に立つのは、子どもたちの身体（からだ）であり、運動に対する受けとめ方（子どもからみた運動の特性）にあります。楽しさを表現するメディアでもある身体は、プレイすることによって十全にその機能を発揮することができ、そのような発揮を導く運動の機能的特性にふれる学習をめざすことが、私たちの研究会の目的です。そのような体育学習に対する考え方は、グローバルなレベルで自然や社会の環境変化が予測されるからこそ、まさに今求められている21世紀型能力を結果的に培っていくことになるのではないのでしょうか。教育には「不易流行」がありますが、複雑に激しく変化する社会だからこそ、これまでの全体研の営み（つみかさね）における「不易流行」を会員の皆さんと共に、今一度考えてみたいと思う次第です。

さて、今年の全国大会はちょうど第60回を数える記念すべき大会ですが、これまで全国大会を開催したことがない岐阜グループの会員の皆さんを中心に行われることになりました。岐阜グループは歴史も浅く、少ない会員規模ではありますが、これまでの研究成果を全国大会で発信しようとする意欲にあふれ、小規模なグループでも全国大会の開催が可能であることにチャレンジしています。

また、この大会では別紙にあるように、全体研の運営委員会主催による第60回大会を記念するシンポジウムを企画しました。会長経験者である永島惇正顧問、佐伯年詩雄顧問、そして元研究委員長である青木真運営委員を交えて、特に第50回記念大会以降の全体研の10年間をふり返り、これからの課題を語り合いたいと思っています。

長良川の清流を愛でながら、11月20日から23日までの4日間、全国の会員の皆さんと共に充実したグループワークの時間（とき）を過ごしませんか。

ここに皆様を、第60回全国体育学習研究協議会岐阜大会におさそい申し上げます。